

千歳市出身の  
プロフットサル選手

## 「ワールドカップで 強豪国に勝つ」

フットサル日本代表  
樋口 岳志 さん



祝梅サッカー少年団でサッカーを始め、大学時代にフットサルに転向しプロ選手となる。国内のFリーグのほか、スペインなど海外リーグでも活躍。フットサルにおいてどのポジションもこなせる“ユニバーサル”として、日本代表に招集される。サッカー時代のポジションはボランチ。

# PEOPLE の 窓

みなさんの活躍  
紹介します

——フットサルの道に進むと決心したきっかけは、どんなことでしょうか。

大学1年で初めて代表に呼ばれ、大学2年のときにタイで行われたアジア大会に出場しました。そこでいろいろある国と戦って、「フットサル面白いな」と感じたのがきっかけです。

——フットサルにおいて全部のポジションをこなす万能性は、どこで生まれたのでしょうか。

周りを見てプレーする、サッカーでのボランチの経験が活きていると思います。最初、フットサルではフィジカルが求められる“ピヴォ”や“フィクソ”という中央のポジションをやっていました。スペインに渡ってからは、“アラ”というドリブルで仕掛けたりするポジションもできるようにになりました。

得意なポジションは。

どんなポジションでも高いレベルでこなし、必要とされるとここで頑張りたいです。

——祝梅サッカー少年団での経験で、今につながっているものはありますか。

基礎技術をしっかり教えてもらったことです。昔から体格には恵まれていましたが、フィジカルに頼らず足元の技術を磨いたことが、フットサルにも活きていると思います。

——後輩たちに、何か一言メッセージを送るとしたら。

体験談になりますが、「無知になるな」と。知らないことが一番怖いと伝えたいですね。自分は小学生の頃から、チームで一番の選手でした。それでも北海道選抜、全国と広がるにつれ、まだまだ上はいます。自分はそれを知らなかったのです。全国でトップレベルの選手でも、世界に目を向けたらもっともつと上が広がっています。

——ズバリ「世界」とはどんな場所なのでしょう。

例えばブラジル人選手は、「家族を養わないといけない」というハングリー精神が違います。戦う前からハングリーさに圧倒されますし、人生がかかっている人には勝てないと思わされます。そういうハングリー精神が、日本と世界との一番大きな差かもしれないですね。

——今後の抱負を聞かせてください。

この後は、海外のフットサルリーグに挑戦します。そこで活躍して、2028年のワールドカップに出場する。そして強豪国に勝つことが、これからの目標です。

## 先生、教えて!

CHITOSE CITY HOSPITAL  
市立千歳市民病院 地域医療連携課  
☎(24)3000 内線 8138

### 児童虐待と 子どもの権利



市立千歳市民病院  
診療部長 (小児科担当) 中本 哲

児童虐待は、身体的虐待、精神的虐待、性的虐待、ネグレクト(養育放棄)の4つに分けられています。これらは子どもが生命や健康を直接脅かすだけではなく、対人関係を困難にさせたり、精神的なトラウマが体調や日常生活を害するなど、大人になってからも長期的に影響を残します。

児童虐待のほとんどは家庭内で起こるため、発見されにくいものです。そのため、発見した人は虐待を早期に疑い対応することが重要です。まずは児童相談所虐待対応ダイヤル(＃189)、市こども家庭課児童相談係、警察など関係機関へ相談してください。

このとき、決定的な証拠や証言を集める必要はありません。時間がかかると被害が拡大します。

てしまいます。また、性的虐待は身体的な証拠が残りにくいため、被害者の証言が重要です。子どもの証言は変わりやすく、話の聞き方によっては証拠能力を失い、子どもが不利益を被ります。「〇〇さんにされたの？」など誘導的な質問はせず、子どもの自発的な発言を聞きましょう。

児童虐待の背景には、子育ての困難さや情報の不足があります。保護者のストレスや孤立感を軽減し、養育を支援することは虐待の予防につながると考えられます。子どもの権利を守る意識を高め、虐待が起きにくい環境をつくっていくためには、地域社会の連携が必要です。

市民病院は院内チャイルド・プロテクション・チームを設置し、関係機関と連携しつつ児童虐待の対応と予防に取り組んでいます。

第32回